

# 中国 5 県休眠預金等活用コンソーシアム

## 第 28 回 運営委員会 議事録

### (1) 日時

---

2023 年 3 月 2 日 (木) 10 時～12 時

### (2) 会場

---

Zoom オンライン会議

### (3) 参加者

#### ① 運営委員

- |   |                 |                 |
|---|-----------------|-----------------|
| ② | とっとり県民活動活性化センター | 毛利葉             |
| ③ | ふるさと島根定住財団      | 細田浩之 (代理：小笠原勝司) |
| ④ | 岡山 NPO センター     | 石原達也            |
| ⑤ | ひろしま NPO センター   | 松原裕樹 (代理：松村渉)   |
| ⑥ | やまぐち県民ネット 2 1   | 伊藤彰             |

### (4) 議題

- 
- ① 2022 災害枠について
  - ② 2023 年度申請について
  - ③ その他

## (5) 記録

### ① 2022 災害枠について

- ✓ 想定する実行団体について、A コース（地域中間支援）、B コース（災害専門性）の2つのコースで各県公募することを確認した
- ✓ A コースについては各県1~2団体の採択を想定し、予算を各県1,200万円（5県総額6,500万円程度）とした
- ✓ B コースについては5県全体で1~3団体程度を想定し、予算は3,500万円程度とした
- ✓ 発災時対応については、緊急対応を想定することから、ABコース採択の実行団体による申請を想定し、準備を行うことを確認した
  
- ✓ 助成額についての意見交換では下記の意見があった
- ✓ 伴走支援を考えると少額コースは現実的ではない
- ✓ 各県1~2団体採択が妥当
- ✓ 申請時に、発災時活動が可能かどうか確認しておく必要がある
- ✓ 発災枠で緊急的な活用を想定しても、JANPIAが求める要件（ガバナンスやコンプライアンス、計画の精度）については通常と変わらないため、新規募集は時間的にも現実的ではない
- ✓ 災害規模、場所、支援期間も多様なので、ある程度幅を設けた準備が必要
- ✓ Aコースについては利益相反関係になる可能性があることから、JANPIAとも協議をしながらケース対応を行う旨を確認した
  
- ✓ 公募要領（審査のポイント）について事務局より説明を行い、公募要領について承認した
- ✓ 承認した公募要領を基に、各県POが審査項目等を精査し、公募要領を完成させることとした
- ✓ 審査委員について事務局より推薦があり承認した

#### 【審査委員候補】

中国労働金庫 営業統括部 営業企画課 課長 児玉武雄氏

認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 理事/事務局長 明城徹也氏

NPO法人 ETIC. 事業本部 兼 ローカルイノベーション事業部 広報・寄付担当/シニアコーディネーター 木村静氏

公益財団法人 福武教育文化振興財団 和田広子氏

- ✓ 評価アドバイザーについて事務局より推薦があり承認した

#### 【評価アドバイザー候補】

多摩大学社会的投資研究所 研究員 小林立明氏

- ✓ 本事業の実施体制について、全体事務局はひろしまNPOセンターが担い、研修企画運営については岡山NPOセンターが原則担うことを確認した

- ✓ 資金計画について、下記の通り方針を定めた
  - ✓ 人件費については岡山 NPO センターの役割（研修企画運営）が従来より大きくなるため、人件費に傾斜をつける
  - ✓ 発災枠のお金は入金されない（別事業扱い）ため、管理的経費もその分少なくなることを留意する
  - ✓ 具体的には 350 万円減額となる
  - ✓ 資金分配団体の 20%自己資金ルールについては運用が変化している
- 
- ✓ スケジュールについて、下記の通り方針を定めた
    - ① 2023 年 2 月 JANPIA と資金分配との契約締結
    - ② 2023 年 3 月 公募要領作成に向けた準備、JANPIA からの振り込み
    - ③ 2023 年 4 月 公募開始：説明会実施
    - ④ 2023 年 5 月 公募締め切り、審査委員会 ※連休前か後か 1 か月公募か 1 か月半公募か
    - ⑤ 2023 年 6 月～7 月 実行団体との資金提供契約

## ② 2023 年度申請について

2023 年度の申請について意見交換を行った

### 【主な意見】

多様な課題へのアプローチは引き続き必要

休眠預金を活用して地域の団体にアプローチを行う

テーマとしては孤独孤立について議論を深めたい

コンソによる休眠預金活用事業について、議会等からも一定の評価を得ており、23 年度以降も継続することについては賛同する

例えば認知症など、各地域共通するテーマを立てるなどして中国地方でモデルを作れたらよいと思う。

現場の団体だけでは難しいことに対して中間支援もタッグを組んでチャレンジできるような枠組みを検討したい

地域に休眠預金に興味関心を持つ団体が増えてきている、休眠にチャレンジをしたい団体への支援も検討したい

コンソーシアムの展開として、四国との連携も検討したい

四国にコミュニティ財団が増えてきていることもあり、意見交換を行えたらと思う

四国の中間支援との意見交換については 2021 事業等の環境整備の枠を活用して実施する

本年度と同じ流れであれば、資金分配団体の公募や春と秋に 2 回ある。春に比べて秋は採択率が低い。

また年度の重なりやスタート時期などにばらつきが生まれることから、可能であれば春募集に手を挙げる方がよい。

本年度は広島で G7 サミットがある。その関係で全国の NPO が広島に集まる。（特に 4 月に市民サミットがある）その機会を活用して、どのようなテーマで NPO が休眠預金を活用すべきか意見交換を行うとよい。

### ③ その他




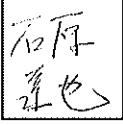
- ✓ 鳥取の実行団体について、助成金の活用方法について検討を行っている。
- ✓ 現時点ではコンソから JANPIA への助成金返金には当たらないと整理している。
- ✓ 助成金減額の可能性について JANPIA から指摘をうけており、この件については改めて実行団体へのヒアリングと執行状況の確認を行い回答する
- ✓ JANPIA から指導を頂いたが、ペナルティを受けたわけではない
- ✓ 引き続き JANPIA との協議を真摯に進めることとした

以上で議事のすべてを終了し、12:00 に閉会した。

以上の議決を明確にするために本議事録を作成し、運営委員がこれに押印する。

2023年3月5日

中国5県休眠預金等活用コンソーシアム

運営委員長	松原裕樹	
運営委員	毛利葉	
運営委員代理	小笠原勝司	
運営委員	石原達也	
運営委員	伊藤彰	